

2010年ワールドカップ特別連載

在南ア日本大使館
領事がつづる

南アフリカ通信

Vol. 19

文・写真◎新保 剛

2010年のワールドカップ開幕まで、あと205日。
開催国の南アのことをよく知らない人も多いだろう。
現地在住の日本大使館領事から届くこのコラムで
生の南アフリカを見て、知って、本大会に備えよう!

日本対南ア代表の親善試合会場が土壇場で変わった。すでにこの号に試合結果が掲載されているが、筆者は本稿を疲労困憊の状態で書いている。

以前、このコラムで「試合の1カ月前にようやくソウエトのオランダ・スタジアムでの開催が決まった」と書いたが、その後も変更があった。ヨハネスブルク市南部にあるランド・スタジアムで開催することで双方のサッカー協会が合意したのは、試合の3週間前だった。

このスタジアムは地元プロチームのホームで、収容人数は2万人弱。ワールドカップの練習会場として利用されるために全面改修され、ピッチの状態も良好だったが、日本外務省が出す危険情報の対象地域のすぐ近くにあった。

ヨハネスブルク市の在留邦人は500人。試合が地元開催となったため、一気に盛り上がり、現地の日本人会がアンケート調査をしたところ、予想を大きく上回り、実に350人以上が観戦を希望し

●「最後まで応援する覚悟はある!?!」●



▲ランド・スタジアムの近くにある教会。強盗対策のため、鉄格子が張り巡らされている...

た。しかし、個別に会場に向かうには危険が大きい。駐車場からスタジアムの間で強盗に遭う危険もある。

そこで日本人会はバスツアーを企画した。集団で行けば、危険は少ないからだ。在南アの日本大使館も全面協力して、スタジアムや現地の警察と交渉し、バスをバトカーで先導してもらい、観客席近くの入口に乗り付けるところまでこぎつけた。

ところが、ツアー募集を始めた途端、南ア側から試合をワールドカップの予定会場に変更するとの連絡があった。試合日の10日前のことだ。場所はポート・エリザベス。ヨハネスブルクから1200キロのかなたにある町だった。

TIA (The Actor) という言葉を前に紹介した。筆者は南ア滞在3年になるが、今回ほど身にしみたことはなかった。この2週間、筆者も日本大使館の同僚もスタジアムに2度ほど足を運んだ。電話やメールの用件のほとんどはこの関連だった。日本人会の幹事の仕事も、本業そっちのけで没頭したが、企画のすべては無に帰した。

それでも、熱心なサポーターはポート・エリザベスに行く。

「最後まで応援する覚悟がある」これが在留邦人のスローガンだからだ。TIAに負けてはならぬ。

著者プロフィール◎一等書記官兼領事。06年より在南ア共和国日本大使館に勤務。業務の1つに在留邦人と日本人旅行者の安全対策がある。2010年のワールドカップに向け、日本人旅行者に安全情報を発信する

外務省海外安全ホームページ <http://www.pubanzen.mofa.go.jp> 在南アフリカ日本国大使館 http://www.za.emb-japan.go.jp/index_jp.html